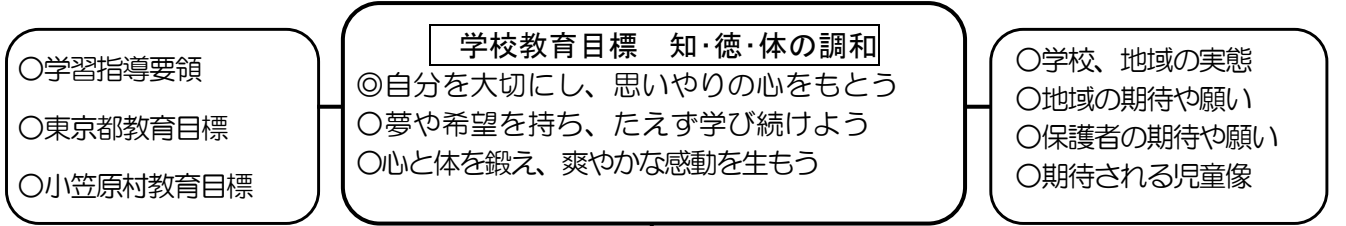


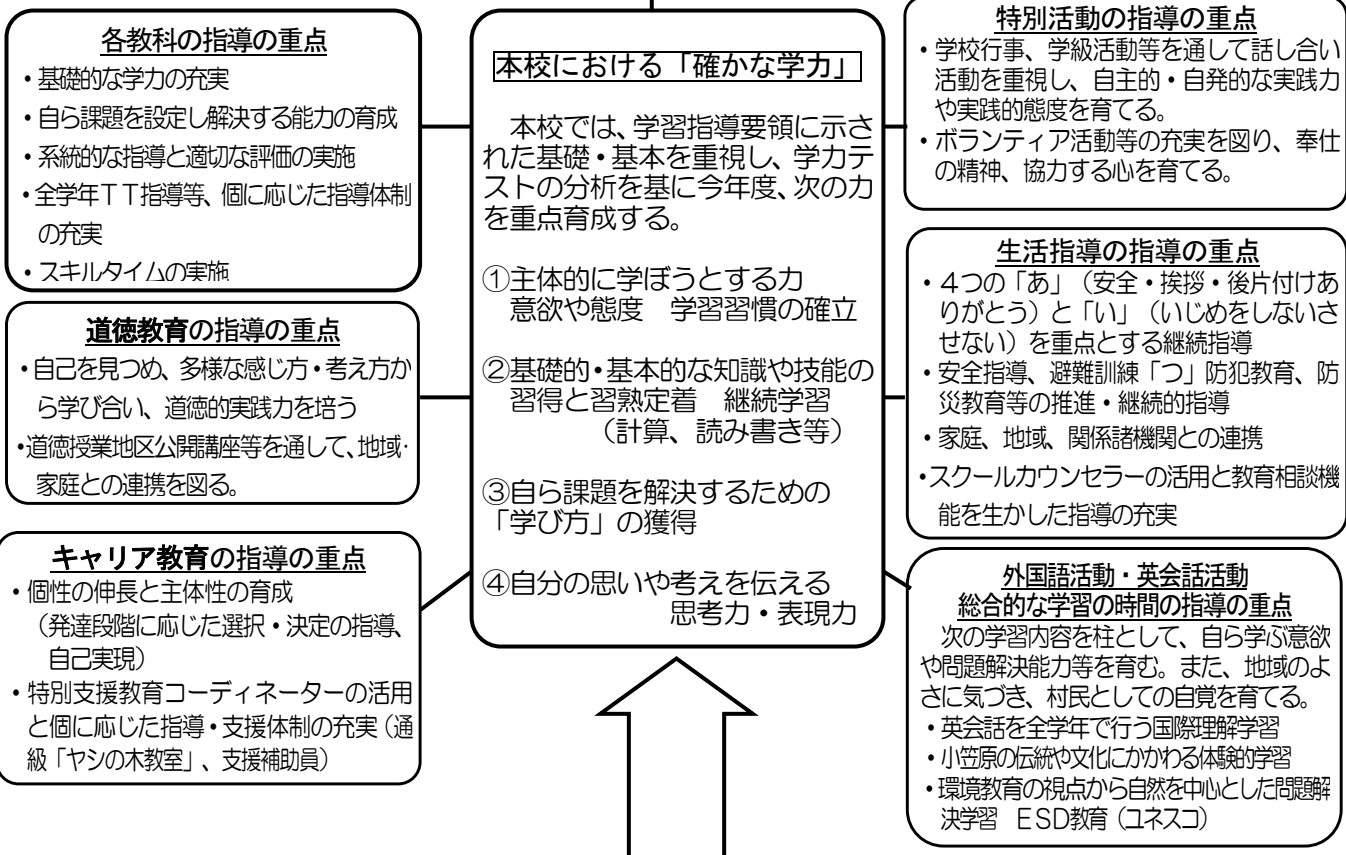
# 授業改善推進プラン 全体計画

平成29年度 小笠原小学校



**【学校経営方針（授業改善にかかわる要点）】**

- ①継続的で地道な教育活動の質的な向上。スキルタイムの活用 学習習慣育成 学力定着
- ②地域の特性を生かした教育の推進。一貫性と継続性の重視
- ③専門性と人間性の向上。教員としての研修と島の自然・文化の研修



本校の授業改善に向けた視点				
教育課程編成上の工夫	学習指導の工夫・改善	評価・評定の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な内容の確実な定着に必要な授業時数の確保と余剰時間の活用</li> <li>・国語と算数を中心として基礎的な学力の反復定着を図る「スキルタイム」の実施</li> <li>・読解力や豊かな心を育む「朝読書タイム」の実施</li> <li>・長期休業中の「学びの場（基礎・基本の補習）」の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的活動の充実による意欲関心を継続させる授業展開の工夫</li> <li>・繰り返し学習の充実</li> <li>・問題解決学習における各段階ごとの指導の工夫</li> <li>・学習規律・ルールの全校体制による指導の徹底・系統性</li> <li>・支援員の効果的な活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価規準に基づいた指導計画・評価計画の作成・活用</li> <li>・週ごとの指導計画を生かした授業改善の視点の明確化</li> <li>・学習カードの活用や観察等による児童の学習状況の把握と個に応じた指導</li> <li>・学習支援の充実と週単位の共通理解と看取り評価</li> <li>・通知表の評価規準の明確化と保護者への説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の授業力向上のための研究授業、協議会の実施</li> <li>・教員同士が日常的に互いの授業を見合う機会の設定</li> <li>・教員が教科等の専門性を高めるための研修の工夫</li> <li>・学力調査の結果分析、課題把握による授業改善推進プランの作成</li> <li>・島しょ研修会、都教委訪問等の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・児童による授業評価の分析</li> <li>・図書ボランティアによる読み聞かせの時間の設定</li> <li>・地域の施設や人材の活用</li> <li>・学校公開、運動会、行事等による学校の教育活動への理解の充実</li> <li>・保護者会等による基本的生活習慣や家庭学習の習慣化への協力依頼（調査・分析・公表）</li> </ul>

# 1年生

## 【国語】

1 児童の実態と分析	2 今後の指導の工夫
<p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <p>○全体的に意欲が高く、伸び伸びと自分の考えを発表することができる。</p> <p>○全体では聞くことが難しい場合も、ペア学習やグループ学習にすると意欲的に参加できる子が多い。</p> <p>▲ペアリングによっては活動を進められない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、児童が意欲的に授業参加できるよう、歌を歌ったり、体を動かしたりする活動を取り入れながら、学習を進める。</li> <li>・ペアリング、グルーピング、学習の進め方の掲示などを工夫し、自主的に学習を進められるようにする。</li> </ul>
<p><b>【話す・聞く】</b></p> <p>○声のものさしを意識して話すことができる。</p> <p>○ペア活動、グループ活動を多く取り入れたことで、全体の前でも堂々と発表することができる。</p> <p>▲会話のヒントとして話型を示すと、意味を理解せずにそのまま使ってしまう、会話が成り立たないことがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「聞き方あいうえお」の復習をしつつ、「話し方かきくけこ」に発展させていく。</li> <li>・ペア学習、グループ学習のモデリングを示し、相手意識をもった会話ができるようにする。</li> </ul>
<p><b>【書く】</b></p> <p>○手紙を書く活動を多く取り入れたことで、相手意識をもった文章で自分の気持ちを伝えることができる。</p> <p>○体験を想起させると、出来事や気持ちを絵日記にくわしく書くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験を想起できるような活動を事前に行い、自分の考えや思いを表現できるように引き続き指導する。</li> <li>・作文の書き方を歌やリズムで覚えられるようにする。</li> <li>・クイズ、説明文、感想文など様々な形態の作文に取り組ませる。</li> </ul>
<p><b>【読む】</b></p> <p>○物語文や詩の音読、役割演技を楽しんで行うことができる。</p> <p>○一斉学習では、どの文が何を説明しているのか把握することができる。</p> <p>▲説明文の自力解決に支援を要する児童が約4割いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より楽しんで音読を継続できるよう、題材を工夫したり、小道具を用意したりする。</li> <li>・物語文ではサイドラインを引いたり、記号を用いたりして、気持ちや様子を想像し易くする。</li> <li>・説明文では穴埋め式のワークシートを用意し、思考の道筋を捉えられるようにする。</li> </ul>
<p><b>【言語事項】</b></p> <p>○全員がひらがな50音を習得している。</p> <p>▲鏡文字になる児童が約2割いる。</p> <p>▲拗音、促音を正しく表記できない児童が半数ほどいる。</p> <p>▲「は・を・へ」の使い分けが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート指導、連絡帳など、文字を書く機会とその都度指導していく。</li> <li>・定期的に書き取りのテストを行い、定着させていく。</li> <li>・「は・を・へ」のキャラクターを作り、どの場面で用いるのか視覚的に捉えられるようにする。</li> </ul>

## 【算数】

1 児童の実態と分析	2 今後の指導の工夫
<p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <p>○難しい問題も、進んでブロックを使用しながら自力で解決しようとする姿が見られる。</p> <p>○答えに自信がもてると全員手を挙げて発表することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援員を活用し、個々のつまづきに対応することで、全員が自信をもって発言できるようにする。</li> <li>・友達の発表の続きを考えたり、黒板に書いたり、発表の形態を工夫し、発言したくなる雰囲気を作る。</li> <li>・具体物、ヒントカード、ワークシートなど、児童の習熟度に合わせた支援を行い、全員が自力解決できるように促す。</li> </ul>
<p><b>【考え方】</b></p> <p>○ブロックや図を用いて、数量や数の大小を表現することができる。</p> <p>○たし算、ひき算の概念を理解し、自分で立式したり問題を作ったりすることができる。</p> <p>▲ひき算の差異を求める問題は、立式や答え方が難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物、図、式というように、問題解決の仕方についての表現の幅を広げていく。</li> <li>・ペアで考え方を伝え合う活動を取り入れることで、自分の考え方を分かりやすく伝えられるようにする。また、友達の考えを聞き、他の考え方もあることを理解できるようにする。</li> <li>・類似問題に繰り返し取り組み、答えの導き方に慣れるようにする。</li> </ul>
<p><b>【技能】</b></p> <p>○10のまとまりにして数を数えることができる。</p> <p>○10までのたし算、ひき算の単元テスト総得点は、全員が8割を超えている。</p> <p>▲計算速度にかなりの個人差がある。</p> <p>▲順序や位置を表す単元で「前から～人」「前から～人目」の違いを表すことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たし算、ひき算の計算カードを用いてタイムを計測し、速く解くことへの意欲をもたせる。</li> <li>・家庭とも連携し、繰り返し問題演習に取り組む。</li> <li>・授業の導入やスキルタイムを活用し、定期的に既習内容の復習をする。</li> </ul>
<p><b>【知識・理解】</b></p> <p>○数の数え方、読み方、書き方を理解している。</p> <p>○10までの数の構成を理解している。</p> <p>○たし算、ひき算の用いられる場面や意味を理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も絵や図を用いて、視覚的に理解できるようにしていく。</li> <li>・引き続き具体物を操作させ、体験的な理解を深め、数量感覚を養う。</li> <li>・学習したことを画用紙などにまとめ、新しい学習でも既習の内容を生かせるようにする。</li> </ul>

## 2年生

### 【国語】

#### 1 基礎の分析

全国得点率と比べて、やや下回った。

《話すこと・聞くこと》

○半数以上が正答している。思考・分析力は8割の正答率。

▲応用・判断力の正答率が低い。

《言語事項》

○漢字の読み書きは、正答率が高い。

▲長音の表記や片仮名で書く言葉の誤答が多い。

《読むこと》

○「場面の様子などについて、想像を広げながら読む」は概ねできている。

▲「時間的な順序、事柄の順序を考えながら、内容の大体を説明する」の正答率が低い。

《書くこと》

○「書こうとする題材に必要な事柄を集めることができる」の正答率が高い。

○「自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考えて書く」は正答率が高い。

#### 2 今後の指導の工夫

- ・順序・事柄を整理する文章問題について練習するようにする。
- ・漢字の指導では、どの画から書くのか注意深く見て、書くことで画数やバランスを意識するようにする。
- ・漢字を熟語で書くことで日常的に使えるようにするとともに、日常的に使うことで覚えられるようにする。
- ・物語では、1人読みの時間とみんなで共有する時間を設け、一人一人の読解を保障しつつ友達との意見交流を通して読み深められるようにする。文全体の構成について起承転結をもとに理解させ、内容の大体をつかませるようにする。
- ・説明文では、初め・中・終わりの構成をもとに、問いと答えの大体や事実の部分と筆者の考えの部分をつかませられるようにする。

#### 3 活用の分析

全国得点率と比べて、やや下回った。

《話すこと・聞くこと》

▲4割程度の正答率、無解答もしくは選択問題に記述をして誤答となっている児童が多い。

《言語事項》

○漢字の読み書きでは誤答が少ない。

▲長音の表記の誤答が多い。

《読むこと》

○物語文の読み取りでは、全国得点率を上回っている。

▲想像を広げながら読むでは、誤答となっている児童が多い。

《書くこと》

○食べ物についての記述では、全国得点率を大きく上回っている。

#### 4 今後の指導の工夫

- ・説明文の問題練習を多くするようにする。
- ・話の聞き取りでは、大事なことは何か、話の主旨を考えさせるようにする。国語以外の教科や日常生活においても話の内容の中心を意識して聞き取らせるようにする。
- ・物語に対する自分の読解と友達の多様な読解を共有させ、より物語の世界観に入り込めるようにする。そして、その面白さから興味関心を高められるようにする。
- ・作文では、学校での身近な出来事から題材を決めて、書きたい内容を中心に据えて書けるように思考を整理していけるようにする。2学期から連絡帳に2行日記を毎日書くようにする。

## 【算数】

<p>1 基礎の分析</p> <p>全国得点率と比べて、やや下回った。</p> <p>《数と計算・数量関係》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○問題の8割ほどは、全国得点率を上回っている。</li><li>▲たし算・ひき算カードを使って式を考えることに誤答となっている児童が多い。</li></ul> <p>《量と測定》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○問題の8割ほどは、全国得点率を上回っている。</li><li>▲与えられた時刻の時計を選ぶ問題で誤答となっている児童が多い。</li></ul> <p>《図形》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○問題の8割ほどは、全国得点率を上回っている。</li><li>▲上下、左右の言葉を使って、ものの位置を表す問題で誤答となっている児童が多い。</li></ul>
<p>2 今後の指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・量と測定では、体験的な活動を通して量感を養い、イメージをもてるようにする。</li><li>・時刻と時間では、日常的に時計を見て行動する習慣を付け、生活上の時刻の設定や時間の量感を養っていくようにする。</li><li>・図形では、積み木を利用して形の特徴や立体の面の形の理解を図るようにする。</li><li>・計算の仕組みや量と測定、図形についての問題演習を多く行っていく。授業で身についたことを確かな学力として定着させる。</li></ul>
<p>3 活用の分析</p> <p>全国得点率と比べて、やや下回った。</p> <p>《数と計算・数量関係》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○概ねの問題に対し、得点率が7割を越えている。全国得点率を上回っている問題も多い。</li><li>▲「条件に合った式を求める」では、誤答になっている児童が多い。</li></ul> <p>《量と測定》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○得点率が6割を越えている。全国得点率を大きく上回っている。</li></ul> <p>《図形》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○概ねの問題に対し、得点率が7割を越えている。全国得点率を上回っている問題も多い。</li><li>▲「立体の面」「色板の枚数から適した形を選ぶ」「ものの位置を表す」の問題で誤答が多い。</li></ul>
<p>4 今後の指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・既習事項を用いたさまざまな問題に取り混ぜ、問題演習力を付ける。</li><li>・具体物操作などの体験的な活動を通して、数の量的な概念を捉えられるようにする。</li><li>・問題文の読解では、下線を引いたり、丸で囲んだりして重要なところが捉えられるようにする。</li><li>・友達の考えを共有することや自分の考えを順序立てて書いたり説明したりすることで、思考を整理していきけるようにする。</li><li>・選択問題の解答方法について練習するようにする。</li><li>・既習事項の苦手な単元や誤答が多い問題形式を理解し、それらを克服するようにする。</li><li>・家庭学習では、宿題と自主課題に取り混ぜせる。保護者と連携をとり共通認識をもち、問題演習力を付けさせるようにする。</li></ul>

# 3年生

## 【国語】

### 1 基礎の分析

全国得点率と比べて、大きく下回った。

#### 《話すこと・聞くこと》

○半数以上が正答している。音源の聞き取りはよくできている。

▲正答は多いが、メモ欄への記述が少ない。記憶に基づいて解答している様子がうかがえる。

#### 《言語事項》

○漢字の読みは、正答率が高い。

▲漢字の書きは、無解答が多く、誤答も多い。

▲選択問題に記述をして誤答となっている児童が半数を超えている。

#### 《読むこと》

○「語や文としてのまとまりや時間的な順序・事柄の順序を考えて読む」は概ねできている。

▲「場面の様子を想像して読む」の誤答が多い。

#### 《書くこと》

▲無解答の児童は、その後の応用問題にも無解答である。

### 2 今後の指導の工夫

- ・選択問題の解答方法について練習するようにする。
- ・漢字の10種の画を指導して、漢字を図的に捉えるのではなく線の組み合わせとして捉えられるようにする。また、どの画が使われているのか注意深く見て、書くことで強く印象をもてるようにする。
- ・漢字を熟語で書くことで日常的に使えるようにするとともに、日常的に使うことで覚えられるようにする。
- ・物語では、1人読みの時間とみんなで共有する時間を設け、一人一人の読解を保障しつつ友達との意見交流を通して読み深められるようにする。文全体の構成について起承転結をもとに理解させ、内容の大体をつかませるようにする。
- ・説明文では、初め・中・終わりの構成をもとに、問いと答えの大体や事実の部分と筆者の考えの部分をつかませられるようにする。

### 3 活用の分析

全国得点率と比べて、大きく下回った。

#### 《話すこと・聞くこと》

▲無解答もしくは選択問題に記述をして誤答となっている児童が多い。

#### 《言語事項》

○漢字の読みでは誤答が少ない。

▲漢字の書きで、無解答が非常に多い。

▲選択問題に記述をして誤答となっている児童が半数を超えている。

#### 《読むこと》

○物語文、説明文の読み取りでは、全国得点率を上回っている。

▲選択問題については、記述をして誤答となっている児童が多い。

#### 《書くこと》

▲無解答率が非常に高く、「取り組む時間」及び「取り組む意欲」に課題がある。

### 4 今後の指導の工夫

- ・選択問題の解答方法について練習するようにする。
- ・話の聞き取りでは、大事なことは何か、話の主旨を考えさせるようにする。国語以外の教科や日常生活においても話の内容の中心を意識して聞き取らせるようにする。
- ・物語に対する自分の読解と友達の多様な読解を共有させ、より物語の世界観に入り込めるようにする。そして、その面白さから興味関心を高められるようにする。
- ・作文では、学校での身近な出来事から題材を決めて、書きたい内容を中心に据えて書けるように、構成表や組み立て用紙で思考を整理していけるようにする。

## 【算数】

<p>1 基礎の分析</p> <p>全国得点率と比べて、やや下回った。</p> <p>《数と計算・数量関係》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○問題の半数ほどは、全国得点率を上回っている。</li><li>▲選択問題に記述をして誤答となっている児童が多い。</li></ul> <p>《量と測定》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○かさの計算は正答率が高く、全国得点率とほぼ同数である。</li><li>▲選択問題に記述をして誤答となっている児童が多い。</li></ul> <p>《図形》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○三角形と四角形の弁別では、70%以上が正答している。</li><li>▲選択問題に記述をして誤答となっている児童が多い。</li></ul>
<p>2 今後の指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・量と測定では、体験的な活動を通して量感を養い、イメージをもてるようにする。</li><li>・時刻と時間では、日常的に時計を見て行動する習慣を付け、生活上の時刻の設定や時間の量感を養っていくようにする。</li><li>・図形では、四角形や三角形などの基本図形の理解を図るようにする。</li><li>・計算の仕組みを具体物やタイル図、ドット図などを用いて理解させると同時に、自力解答する手段として使いこなせるように繰り返し取り組ませるようにする。</li></ul>
<p>3 活用の分析</p> <p>全国得点率と比べて、やや下回った。</p> <p>《数と計算・数量関係》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○概ねの問題に対し、得点率が50%を越えている。全国得点率を上回っている問題も多い。</li><li>▲乗法の文章問題作りでは、無解答と、問題として成立していない誤答が多い。</li></ul> <p>《量と測定》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▲与えられた長さの目盛りの読み取りでは、無解答が半数近くいた。</li><li>▲選択問題に記述をして誤答となっている児童が多い。</li></ul> <p>《図形》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▲選択問題に記述をして誤答となっている児童が多い。</li><li>▲六角形を三角形2つと四角形に分ける作図問題で、無解答が半数近くいた。</li></ul>
<p>4 今後の指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・既習事項を用いた応用問題や逆思考の問題に取り組ませ、応用力を付ける。</li><li>・具体物操作などの体験的な活動を通して、数の量的な概念を捉えられるようにする。</li><li>・問題文の読解では、下線を引いたり、丸で囲んだりして重要なところが捉えられるようにする。</li><li>・友達の考えを共有することや自分の考えを順序立てて書いたり説明したりすることで、思考を整理していきけるようにする。</li><li>・選択問題の解答方法について練習するようにする。</li></ul>

## 4年生

### 【国語】

<p>1 基礎の分析</p> <p>全国得点率と比べて、下回っている。</p> <p>【領域別】</p> <p>《話すこと・聞くこと》 全国値に比べて、同等である。話し合いの内容の聞き取りについての理解が進んでいる。</p> <p>《言語事項》 全国値に比べて、同等である。 しかし、漢字の書き(3年生までに学習した漢字)において、下回っている。 →「期待」「短い」「美しい」</p> <p>《読むこと》 全国値に比べて、同等である。特に物語の読み取りについての理解が進んでいる。</p> <p>《書くこと》 全国値に比べて、下回っている。「相手や目的に応じて適切に書くこと・段落と段落の続き方に注意して書くこと・自分の考えが明確になるように段落相互の関係を考えて書くこと」全てにおいて下回っている。</p> <p>【能力別】</p> <p>《認知・理解力》 全国値に比べて、下回っている。特に「書くこと」における、相手や目的に応じて適切に書くこと・段落と段落の続き方に注意して書くことに課題がある。</p> <p>《思考・分析力》 全国値に比べて、同等である。</p> <p>《応用・判断力》 全国値に比べて、同等である。</p> <p>《説明・表現力》 全国値に比べて、下回っている。特に「書くこと」における、段落と段落の続き方に注意して書くこと・自分の考えが明確になるように段落相互の関係を考えて書くことに課題がある。</p>
<p>2 今後の指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学習過程が分かる、指導計画・板書・ノート指導の工夫をする。</li><li>・国語だけではなく、<b>各教科・領域における文章の作成</b>をする</li><li>・スキルタイムにおいて、様々な条件での作文を書く。</li><li>・目的に応じた要旨を書く。</li></ul>
<p>3 活用の分析</p> <p>全国得点率と比べて、下回っている。</p> <p>特に、「自分の考えが明確になるように段落相互の関係を考えて書くこと」に課題がある。</p>
<p>4 今後の指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・つなぎ言葉、接続語に着目し、<b>文章構成</b>をつかむ。<b>段落相互の関係を捉える授業</b>を展開する。</li><li>・表現の工夫(書き出し、引用、事実、意見等)に着目して読む。</li><li>・<b>読書活動</b>を続けて推進する。同じ作者の本や同じテーマの本を読むなどして比べる。</li></ul>



## 【社会】

1 基礎の分析
<p>全国得点率と比べて、下回っている。</p> <p>【領域別】</p> <p>《身近な地域》 全国値に比べて、同等である。特に地図記号についての理解が進んでいる。</p> <p>《地域の人々の生産と関係》 全国値に比べて、同等である。ただし、「農家の仕事」においては農家で働く人の工夫について説明する事、農家にまつわる資料の読み取り、農家が減少した理由についての判断に課題がある。</p> <p>《地域の人々のくらしのうつりかわり》 全国値に比べて、下回っている。ただし、昔のくらしの様子を調べる方法についての判断、昔と今の道具の違いの理解、道具の移り変わりについての判断に課題がある。</p> <p>【能力別】</p> <p>《認知・理解力》 全国値に比べて、同等である。</p> <p>《思考・分析力》 全国値に比べて、同等である。</p> <p>《応用・判断力》 全国値に比べて、同等である。</p> <p>《説明・表現力》 全国値に比べて、同等である。</p>
2 今後の指導の工夫
<ul style="list-style-type: none"><li>・学習過程が分かる、指導計画・板書・ノート指導の工夫をする。</li><li>・<b>地図帳</b>を有効活用し、地理的感覚を養う。(方位についても確認する。)</li><li>・スキルタイムを活用し、八方位、地図など<b>知識・技能の日常化</b>を図る。</li></ul>
3 活用の分析
<p>全国得点率と比べて、下回っている。特に、町探検で調べる内容についての判断、農家が減少した理由についての判断に課題がある。</p>
4 今後の指導の工夫
<ul style="list-style-type: none"><li>・映像資料を活用する。(特に動画は印象に残りやすく効果的である。)</li><li>・段階に合わせた資料読み取りの力や、複数の資料を関連させながら読み取る力をつけ、<b>読み取ったことを的確に表現</b>できるようにする。(文章での表現を中心に)</li></ul>

## 【算数】

1 基礎の分析
全国得点率と比べて、下回っている。 【領域別】 《数と計算》 全国値に比べて、同等である。しかし、4位数÷4位数=4位数の筆算、3位数×2位数の筆算、整数-小数第一位の計算の筆算、1-分数の計算に課題がある。また、乗数が2位数の筆算の仕方の理解やあまりのあるわり算の文章題のわる数とあまりの関係の理解については、全体の1割未満しか理解できていなかった。 《量と測定》 全国値に比べて、下回っている。特に、秤量2kgのはかりに与えられた重さを示す針を書くことや適切な重さの単位の理解、重さを求めること、道のりの単位換算、長さの加減計算に課題がある。 《図形》 全国値に比べて、下回っている。特に円の半径から直径の長さを求めること、球の半径から箱の長さを求めることに課題がある。 《数量関係》 全国値に比べて、大きく下回っている。□を使った式、ぼうグラフと表どちらにおいても課題がある。 【能力別】 《認知・理解力》 全国値に比べて、下回っている。整数-小数第一位の計算の筆算、1-分数の計算に課題がある。 《思考・分析力》 全国値に比べて、同等である。 《応用・判断力》 全国値に比べて、下回っている。特に、□を使った文章題を表した図の理解、グラフでの1目盛りを表す大きさを正しく決めることに課題がある。 《説明・表現力》 全国値に比べて、下回っている。特に、秤量2kgのはかりに与えられた重さを示す針を書くことや乗数が2位数の筆算の仕方の理解やあまりのあるわり算の文章題のわる数とあまりの関係の理解(得点率1割未満)に課題がある。
2 今後の指導の工夫
・学習過程が分かる、指導計画・板書・ノート指導の工夫をする。 ・東京ベーシックドリルの活用を図り、基礎基本内容の定着を図る。 ・数直線の定着を図る。
3 活用の分析
全国得点率と比べて、下回っている。いずれに領域においても、活用問題には課題がある。乗数が2位数の筆算の仕方の理解やあまりのあるわり算の文章題のわる数とあまりの関係の理解(得点率1割未満)に課題がある。
4 今後の指導の工夫
・演算決定、波線、比例関係の保障、確かめ算の習慣化を図る。 ・省略しない筆算の定着を図る。(包含徐でも等分徐でも通用する) ※手隠し法は矛盾が生じるため

## 【理科】

1 基礎の分析
全国得点率と比べて、下回っている。 【領域別】 《物質・エネルギー》 全国値に比べて、同等である。しかし、容器の形が違っても、水の重さは変わらないことへの理解や姿勢を変えたり物の持ち方を変えたりしても重さは変わらないことへの理解に課題がある。 《生命・地球》 全国値に比べて、同等である。しかし、ホウセンカの花の指摘やモンシロチョウの幼虫の様子への理解、太陽の観察の仕方への理解に課題がある。 【能力別】 《認知・理解力》 全国値に比べて、下回っている。特に、ホウセンカの花の指摘、モンシロチョウの幼虫の様子への理解、容器の形が違っても、水の重さは変わらないことへの理解に課題がある。 《思考・分析力》 全国値に比べて、同等である。 《応用・判断力》 全国値に比べて、下回っている。しかし、いろいろな物体の重さを比べたとき重さが違うものを指摘することや同体積での物の重さの表から重さを同じにしたときの体積をくらべることに於いて(得点率1割未満)理解に課題がある。 《説明・表現力》 全国値に比べて、同等である。
2 今後の指導の工夫
<ul style="list-style-type: none"><li>・学習過程が分かる、指導計画・板書・ノート指導の工夫をする。</li><li>・観察実験の技能向上を図るため、試験管のナンバリングなどをし、<b>使いやすい実験環境</b>を整える</li><li>・学習支援員を適切に配置し、<b>授業準備片づけ時間の効率化</b>を図り、観察技能の時間を作る。</li></ul>
3 活用の分析
全国得点率と比べて、下回っている。ほとんどの問題において得点率が下回っており、特に物の重さにおける、いろいろな物体の重さを比べたとき重さが違うものを指摘することや同体積での物の重さの表から重さを同じにしたときの体積をくらべることに於いて(得点率1割未満)理解に課題がある。
4 今後の指導の工夫
<ul style="list-style-type: none"><li>・<b>科学用語の確実な意味理解</b>や算数科との関連付けを行い、ノートに書く<b>(表現)力の向上</b>を図る</li><li>・考察時に於いて、<b>追究課題</b>を書く習慣を身に付けさせる。</li></ul>

## 5年生

### 【国語】

<p>1 基礎の分析</p> <p>全国得点率と比べて、やや下回った。</p> <p>《話すこと・聞くこと》</p> <p>○得点率は約8割。話の中心に気を付けて聞くことができる。</p> <p>《言語事項》</p> <p>○漢字の読みについては良好。</p> <p>▲漢字の書き取りにやや課題が見られる。</p> <p>▲主語・述語、修飾語・被修飾語の関係を正しくとらえ、判断する問題ではやや課題が見られる。</p> <p>《読むこと》</p> <p>○物語文、説明文ともに中心となる語や文をとらえて文章を正しく読むことについて全国得点率とほぼ同等である。</p> <p>▲叙述を基に人物の心情を想像して読むことについて全国得点率を下回る設問があった。</p> <p>《書くこと》</p> <p>▲得点率は約6割。段落と段落の続き方に注意して書くことに課題がある。</p>
<p>2 今後の指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・授業時間内に漢字のミニテストを取り入れ、漢字への関心を高める。また、得点を記録し、定着を図る。</li><li>・スキルタイムを活用して反復練習を行い、漢字や言語の定着を図る。</li><li>・日常の「書くこと」の指導では、授業時間の中で自分の考えや意見を書く時間を確保し、書く力の向上を目指す。</li><li>・「読むこと」の指導では根拠となる叙述にサイドラインを引きながら読み取りを進めることで、語句に着目できるようにする。</li></ul>
<p>3 活用の分析</p> <p>全国得点率と比べて、やや下回った。</p> <p>《話すこと・聞くこと》</p> <p>○話の中心に気を付けて聞き、自分の考えをまとめる設問は全国得点率とほぼ同等のものと、全国得点率を大きく上回るものがあった。</p> <p>《言語事項》</p> <p>○慣用句や同音異字の使い分けは非常に高い。</p> <p>▲主語・述語、修飾語・被修飾語の関係を判断する問題では得点率が約1割のものがあった。</p> <p>《読むこと》</p> <p>○読み取った内容について文章を抜き出す問題での得点率は全国得点率と同等だった。</p> <p>▲叙述を基に人物の心情を想像して読む問題では、全国得点率を大きく下回るものがあった。</p> <p>《書くこと》</p> <p>▲自分の考えが明確になるよう、段落相互の関係を考えて書くことについては、全国得点率を大きく下回るものがあった。</p>
<p>4 今後の指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・文章の内容を要約したり、それを基に紹介したりする活動で、内容の説明力を高める。</li><li>・スキルタイムに試験形式の回答練習を継続して行い、回答の仕方に慣れる。</li><li>・授業内で時間を定めて活動する機会を設け、時間内に活動を終える習慣をつける。</li><li>・行事などの際に作文を書く機会を積極的に設ける。</li></ul>

## 【算数】

1 基礎の分析
全国得点率と比べて、ほぼ同等であった。 《数と計算》 ○億と兆・がい数の表し方の問題と同分母分数の加法の計算では、全国得点率を大きく上回った。 ▲小数の除法の計算では、全国得点率を大きく下回った。 ▲十進位取り記数法による数の表し方の設問では、全国得点率を大きく下回った。 《量と測定》 ○角の大きさについて隣り合う角の大きさを求める設問では、全国得点率を大きく上回った。 ▲方眼を利用して、いろいろな面積を求める問題では、全国得点率をやや下回った。 《図形》 ○垂直・平行と四角形の設問では、どの問題も全国得点率を上回った。 ▲方眼を利用して、いろいろな形の面積を求める問題では、全国得点率をやや下回った。 《数量関係》 ○折れ線グラフを読み取って増加量を表す問題では全国得点率を上回った。 ▲折れ線グラフの二次元表から全体の合計を求める問題では、全国得点率を大きく下回った。
2 今後の指導の工夫
<ul style="list-style-type: none"><li>・授業の終末に簡単な計算問題を取り入れ、素早く計算処理する力を伸ばす。</li><li>・スキルタイムを活用して、分数の計算練習やグラフの問題練習を行う。</li><li>・時間や時刻の計算について、日常の中で児童に計算できる機会をもたせる。</li><li>・特に数量関係については単元の導入で既習事項の復習を行い、定着を確実にする。</li></ul>
3 活用の分析
全国得点率と比べて、やや下回った。 《数と計算》 ○与えられた分数を数直線上に表す問題では、全国得点率をやや上回った。また、数直線を利用して、分母が10の分数と小数の大小比較では、全国得点率を大きく上回った。 ▲がい数の表し方について、四捨五入について理解し、千の位までを求める問題では、全国得点率よりやや下回った。 《量と測定》 ○複合図形の面積を求める式から、図に線を描いてその求め方を導く問題では、全国得点率をやや上回った。 ▲縦と横の長さから求めた面積を $m^2$ から $k m^2$ に単位変換する問題では、全国得点率をやや下回った。 《図形》 ○平行四辺形の定義や性質の理解が求められる問題では、全国得点率をやや上回った。 《数量関係》 ○折れ線グラフと表に関する設問はどの問題も全国得点率とほぼ同等だった。 ▲文章題で( )を使った式をつくる問題では、全国得点率を大きく下回った。
4 今後の指導の工夫
<ul style="list-style-type: none"><li>・国語科で語句に着目し、文章に即して読む力を育てる。</li><li>・友達の図や式から友達がどのように考えたのか予想し、友達の考えを説明する活動を取り入れることで、図や式から判断する力を高める。</li><li>・単元の最後に、既習事項を生かした問題作りに取り組み、問題作りの力を養う。</li></ul>

## 【社会】

1 基礎の分析
<p>全国得点率と比べて、ほぼ同等であった。</p> <p>《地域のくらしと産業》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○消防署の仕事についての設問では、ほぼ全ての問題で100%だった。</li><li>▲日本の農業の得点率が全国得点率を下回った。</li></ul> <p>《地域に残る昔のくらし》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○洗濯するための道具などについての問題の得点率が全国得点率を上回った。</li><li>▲昔の水の入手方法についての問題では全国得点率を大きく下回った。</li></ul> <p>《地域の暮らしを守る》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▲3問中（全問題）2問が全国得点率より低い結果だった。</li></ul> <p>《わたしたちの住む地域》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○14問中（全問題）9問が全国得点率より高い結果だった。</li><li>▲14問中（全問題）5問が全国得点率より低い結果だった。</li></ul>
2 今後の指導の工夫
<ul style="list-style-type: none"><li>・復習の時間を授業の中やスキルタイムで設け、地球儀や都道府県、世界の国々について反復学習を行う。</li><li>・社会科で学んだことの定着を確認するために、問題や単元テストを用いて、各個人に合わせた指導を継続していく。</li></ul>
3 活用の分析
<p>全国得点率と比べて、大きく上回った。</p> <p>《日本の農業と水産業》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○「米作りにおける農業散布の目的説明」は得点率100%。</li><li>▲7問中（全問題）4問（漁業、米作り、食糧自給率の低下について考え判断する）が全国得点率より低い結果だった。</li></ul> <p>《日本の工業生産と貿易》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○全ての問題（5問）で全国得点率を上回った。（工場、電気自動車、判断に至るまでの根拠、貿易摩擦の背景を考える）</li></ul> <p>《日本の通信とわたしたちの暮らし》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▲全ての問題（1問）で全国得点率を下回った。（情報の正しい取り扱いについて考え、判断する）</li></ul> <p>《日本の国土と自然の様子》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▲全ての問題（1問）で得点率は全国得点率を下回った。（森林の様々な働きについて考え、説明する）</li></ul>
4 今後の指導の工夫
<ul style="list-style-type: none"><li>・友達同士の教え合いや友達の話をしっかり聞いて考えを共有すること、自分の考えを順序立て説明することを、社会科の学習の基本として進めていく。</li><li>・単元の学習の中で、「自分だったらどう考えるか」という発問を行い、一人一人の判断、考えが伝わるように説明的文章を書かせる。</li></ul>

## 【理科】

1 基礎の分析
全国得点率と比べて、やや下回った。 《生命・地球》 ○月と星の設問では全ての問題で全国得点率を上回った。 ○サクラの冬の様子や1年間のカマキリの様子についての得点率は9割を越えた。 ▲図から南北によるツバメの渡りの時期の違いを読み取る問題では、全国得点率を大きく下回った。 《物質・エネルギー》 ○電気のはたらきや水のすがたの問題では得点率が9割を越えたものがあった。 ▲物のあたたまり方の設問では、全ての問題で全国得点率を下回った。
2 今後の指導の工夫
・復習の時間を授業の中やスキルタイムで設け、既習事項について反復学習を行う。 ・物のあたたまり方や生命の単元については、時期や種類によっての違いなどについて比較する活動を授業の中で多く取り入れていく。
3 活用の分析
全国得点率と比べて、やや下回った。 《生命・地球》 ○筋肉の収縮や星の動き方については、全国得点率を上回った。 ▲自然の中の水についての応用問題は、全国得点率を下回った。 《物質・エネルギー》 ○電気のはたらきの応用問題では、全ての設問で全国得点率を上回った。 ▲物の体積と力の応用問題では、全ての設問で全国得点率を下回った。
4 今後の指導の工夫
・授業中どの単元であっても、予想・結果・考察の流れを明確にし、振り返りしやすいノート作りを意識させる。 ・各単元を学習する前に既習事項の確認を行ったり、前時を想起させる時間を確保したりすることで学習の定着を図っていく。

## 6年生

### 【国語】

<p>1 基礎の分析</p> <p>全国得点率と比べて、やや上回った。</p> <p>《話すこと・聞くこと》</p> <p>○全ての問題（3問）で得点率は全国得点率を上回った。（話の内容を正確にとらえる、意図を考えながら聞く、話の組み立ての工夫）</p> <p>《言語事項》</p> <p>○漢字の読み、書き、語句文法に関する知識ともに全国得点率を上回った。特に「漢字の書き」は、全国得点率に比べ得点率が高かった。</p> <p>▲「語句・文法に関する知識」は6問中（全問題）3問が全国得点率より低い結果だった。</p> <p>《読むこと》</p> <p>○「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら読むことができる」の得点率が高かった。</p> <p>▲6問中（全問題）2問（登場人物の心情を読む、適切な語句を選ぶ）が全国得点率より低い結果だった。</p> <p>《書くこと》</p> <p>▲2問中（全問題）2問（自分の考えを効果的に書く、必要な事柄を整理して書くことができる）が全国得点率より低い結果だった。</p>
<p>2 今後の指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・友達同士の教え合いや友達の話をしっかり聞いて考えを共有すること、自分の考えを順序立てて説明することを、授業中の基本として進めていく。</li><li>・生活作文や学習の振り返り、物語作り、活動報告書などたくさんのジャンルの「書くこと」に日常的（他教科の時間も関連させ）に取り組んでいく。</li><li>・「相手や目的に応じて適切に書く」「段落と段落の続き方」を意識した文章作りを授業やスキルタイムの中で適切に行っていく。</li><li>・文章の中から漢字、語句に注目させ、身近な言葉に置き換えながら習得していく。</li></ul>
<p>3 活用の分析</p> <p>全国得点率と比べて、やや上回った。</p> <p>《話すこと・聞くこと》</p> <p>○全ての問題（2問）で得点率は全国得点率を上回った。（目的や意図の説明、計画的な話し合い）</p> <p>《言語事項》</p> <p>○全ての問題（2問）で得点率は全国得点率を上回った。（語句に注意し正しい文をつくる）</p> <p>《読むこと》</p> <p>○6問中（全問題）4問（場面について、要旨をとらえる、目的に応じて文章の内容を的確に押さえながら読む、効果的な読み方）が全国得点率より高い結果だった。</p> <p>▲6問中（全問題）2問（目的に応じて文章の内容を的確に押さえながら読む）が全国得点率より低い結果だった。</p> <p>《書くこと》</p> <p>○全ての問題（3問）で得点率は全国得点率を上回った。（事柄を整理して書く、自分の考えを明確に表現する）</p>
<p>4 今後の指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生活作文や学習の振り返り、物語作り、活動報告書などたくさんのジャンルの「書くこと」に日他教科の時間も関連させ）に取り組んでいく。書いたものを、仲間と共有し、アドバイスやいい所を見つけ合う中で、お互いの興味関心や表現力を高めていく。</li><li>・自分の考えが伝わるように書くことを声かけや説明などを通して継続的に指導していく。</li><li>・単元テストを用いて全国平均とクラス平均、個人の学期平均を検証し、授業を改善していく。</li></ul>



## 【社会】

1 基礎の分析
<p>全国得点率と比べて、やや上回った。</p> <p>《日本の農業と水産業》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○日本の水産業の得点率が全国得点率より高かった。(海流、漁業)</li><li>▲日本の農業の得点率が全国得点率より低かった。(米作り)</li></ul> <p>《日本の工業生産と貿易》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○自動車をつくる工業の得点率が全国得点率より高かった。(工場、自動車)</li><li>○日本の貿易の得点率が全国得点率より高かった。(世界の国々)</li></ul> <p>《日本の通信とわたしたちの暮らし》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▲3問中(全問題) 2問(テレビ、情報の正しい取り扱い方)が全国得点率より低い結果だった。</li></ul> <p>《日本の国土と自然の様子》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○14問中(全問題) 9問(各地の気候、地球儀、世界の国々)が全国得点率より高い結果だった。</li><li>▲14問中(全問題) 5問(各地の気候、地球儀、世界の国々)が全国得点率より低い結果だった。</li></ul>
2 今後の指導の工夫
<ul style="list-style-type: none"><li>・復習の時間を授業の中やスキルタイムで設け、地球儀や都道府県、世界の国々について反復学習を行う。</li><li>・社会科で学んだことの定着を確認するために、問題や単元テストを用いて、各個人に合わせた指導を継続していく。</li></ul>
3 活用の分析
<p>全国得点率と比べて、大きく上回った。</p> <p>《日本の農業と水産業》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○「米作りにおける農業散布の目的説明」は得点率100%。</li><li>▲7問中(全問題) 4問(漁業、米作り、食糧自給率の低下について考え判断する)が全国得点率より低い結果だった。</li></ul> <p>《日本の工業生産と貿易》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○全ての問題(5問)で得点率は全国得点率を上回った。(工場、電気自動車、判断に至るまでの根拠、貿易摩擦の背景を考える。)</li></ul> <p>《日本の通信とわたしたちの暮らし》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▲全ての問題(1問)で得点率は全国得点率を下回った。(情報の正しい取り扱いについて考え、判断する。)</li></ul> <p>《日本の国土と自然の様子》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▲全ての問題(1問)で得点率は全国得点率を下回った。(森林の様々な働きについて考え、説明する。)</li></ul>
4 今後の指導の工夫
<ul style="list-style-type: none"><li>・友達同士の教え合いや友達の話をしっかり聞いて考えを共有すること、自分の考えを順序立てて説明することを、社会科の学習の基本として進めていく。</li><li>・単元の学習の中で、「自分だったらどう考えるか」という発問を行い、一人一人の判断、考えが伝わるように説明的文章を書かせる。</li></ul>

## 【算数】

### 1 基礎の分析

全国得点率と比べて、やや上回った。

《数と計算》

▲ 15問中（全問題）10問（分数と小数、分数の計算、小数の計算、整数のなかま分け）が全国得点率より低い結果だった。

《量と測定》

○ 5問中（全問題）4問（面積と体積、単位量あたりの大きさ）が全国得点率より高い結果だった。

《図形》

○ 5問中（全問題）4問（図形の角、円周、立体、合同）が全国得点率より高い結果だった。

《数量関係》

○ 4問中（全問題）3問（百分率とグラフ）が全国得点率より高い結果だった。

▲ 「小数で表された割合を百分率で表すことができる」が全国得点率より低かった。

### 2 今後の指導の工夫

- ・ 友達同士の教え合いや、友達の話をしっかり聞いて考えを共有することや、自分の考えを順序立てて式や図、分で書いたり説明したりすることを大切にしながら授業を進める。
- ・ 図形、具体物、操作を取り入れた活動も多く取り入れ、量感などを大切にしながら問題解決を重ねていく。

### 3 活用の分析

全国得点率と比べて、やや上回った。

《数と計算》

○ 5問中（全問題）4問（分数と小数、分数の計算、小数の計算、整数のなかま分け）が全国得点率より高い結果だった。

《量と測定》

▲ 6問中（全問題）5問（面積と体積、単位量あたりの大きさ）が全国得点率より低い結果だった。

《図形》

○ 4問中（全問題）4問（図形の角、円周、立体、合同）が全国得点率より高い結果だった。

《数量関係》

▲ 4問中（全問題）3問（百分率とグラフ）が全国得点率より低い結果だった。

### 4 今後の指導の工夫

- ・ 友達同士の教え合いや、友達の話をしっかり聞いて考えを共有することや、自分の考えを順序立てて式や図、分で書いたり説明したりすることを大切にしながら授業を進め、自分の考えを表現できるようにしていく。
- ・ 図形、具体物、操作を取り入れた活動も多く取り入れ、量感などを大切にしながら問題解決を重ねていく。
- ・ 算数「時間のきまり」で学習した、□を使った式や計算の交換法則、分配法則などの既習事項を6学年の単元でも生かしながら、学習を重ねていく。
- ・ 単元テスト、全国平均とクラス平均、個人の学期平均を検証しながら、授業改善を行っていく。

## 【理科】

1 基礎の分析
<p>全国得点率と比べて、やや上回った。</p> <p>《生命・地球》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○24問中（全問題）20問（植物、顕微鏡、魚のたんじょう、人のたんじょう、天気、流れる水のはたらき）が全国得点率より高い結果だった。</li><li>○「顕微鏡で観察するとき、どのようなところに置けばよいかわかる」の得点率100%。</li><li>○「メダカのたまごがよく見られる場所がわかる」の得点率100%。</li></ul> <p>《物質・エネルギー》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○11問中（全問題）10問（ふりこのきまり、電流のはたらき、物のとけ方）が全国得点率より高い結果だった。</li><li>○「メスシリンダーの正しい使い方を指摘できる」の得点率100%。</li><li>▲「電磁石と磁界の向き」の得点率が全国得点率を下回った。</li></ul>
2 今後の指導の工夫
<ul style="list-style-type: none"><li>・復習の時間を授業の中やスキルタイムで設け、既習事項について反復学習を行う。</li><li>・理科で学んだことの定着を確認するために、問題や単元テストを用いて、各個人に合わせた指導を継続していく。</li></ul>
3 活用の分析
<p>全国得点率と比べて、やや上回った。</p> <p>《生命・地球》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○10問中（全問題）7問（植物、顕微鏡、魚のたんじょう、人のたんじょう、天気、流れる水のはたらき）が全国得点率より高い結果だった。</li><li>▲10問中（全問題）3問（種子の胚の部分の表現、天気の指摘、扇状地ができる理由）が全国得点率より低い結果だった。</li></ul> <p>《物質・エネルギー》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○5問中（全問題）4問（ふりこのきまり、電流のはたらき、物のとけ方）が全国得点率より高い結果だった。</li><li>▲「リサイクル工場で電磁石を使ったクレーンで鉄くずを集める理由を説明できる」の得点率が全国得点率を下回った。</li></ul>
4 今後の指導の工夫
<ul style="list-style-type: none"><li>・友達同士の教え合いや友達の話をしっかり聞いて考えを共有すること、自分の考えを順序立て説明することを、理科の学習の基本として進めていく。</li><li>・単元の学習の中で、予想、結果、考察の流れと、一つ一つの活動で、一人一人が判断し、考えが伝わるように説明する機会をたくさん設けていく。</li></ul>

# 【音楽】

## 1年生

1 児童の実態と分析	2 今後の指導の工夫
<p><b>【音楽への関心・意欲・態度】</b></p> <p>音楽の授業に非常に意欲的にのぞみ、積極的に音楽に合わせて歌ったり、身体を動かしたり、集中して鑑賞したりすることができる。鍵盤ハーモニカ等の楽器を学習する際も、指示を聞く時と音を出す時のメリハリをつけることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童がより楽しく取り組めるような教材選択、授業形態の工夫をする。</li><li>・発達段階ならではの集中力の持続時間も考えて、緩急のつけた授業展開をする。</li></ul>
<p><b>【音楽表現の創意工夫】</b></p> <p>歌詞の表す情景や場面を言葉で説明したり、身体の動きで表したりすることに楽しんで取り組んでいる。自分で身体の動きが思い浮かばない児童は、友達の見本を参考にしながら取り組んでいる。「元気な声」「やさしい声」など、曲想に合わせて声の変化をつけることが学級全体としてできるようになってきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・曲のイメージを思い浮かべやすくするために、絵や写真、映像等の視覚教材を積極的に活用する。</li><li>・曲想に合わせて演奏の仕方を変化させる楽しさを味わわせるために、様々な曲想の曲を扱い、曲のイメージに合わせて、体の動きや声色を工夫する活動を取り入れる。</li></ul>
<p><b>【音楽表現の技能】</b></p> <p>歌唱では、口を大きく開け、自分の声を精一杯に出して表現することができる。はじめは歌うことにやや消極的な児童も、学級全体の雰囲気や、「指が3本入る口の大きさを歌おう」という教師の指示等により、最終的には全員が表現できている。鍵盤ハーモニカの学習では、正しい指づかいの定着に時間のかかる児童や、タンギングをはっきり行うことがやや苦手な児童がそれぞれ数人いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・今後も、児童が歌いたくなる教材選択、雰囲気作りに努めていく。</li><li>・鍵盤ハーモニカの指導では、色分けをするなど視覚的資料の工夫をし、指づかいを分かりやすくする。全体の場をつまずきがみられる児童には机間指導を丁寧に行い、少しでも「できるようになった」という達成感を味わわせて授業を終えるようにする。</li></ul>
<p><b>【鑑賞の能力】</b></p> <p>学級全体として、静かに集中をした様子で楽曲を聴くことができる。また、楽曲を聴いて感じ取ったことを、積極的に自分の言葉で表すことができる児童も多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・楽曲を聴いて感じ取ったことを友達などに伝え合う活動も取り入れる。それにより、友達の感じ方に気付き、自分の感じ方を広げさせていく。その際には、個人、ペア、3人など段々と人数を増やしていくよう工夫をし、全員が自分の言葉で話せるようにする。</li><li>・言葉だけでなく、身体を動かしながら聴く活動も取り入れ、音楽との一体感を味わわせていく。</li></ul>

## 2年生

1 児童の実態と分析	2 今後の指導の工夫
<p><b>【音楽への関心・意欲・態度】</b></p> <p>新しい曲や新しい楽器への好奇心が旺盛で、意欲的に学ぶ児童が多い。少数ではあるが、音楽に合わせて歌ったり身体を動かしたりすることを恥ずかしがる児童、できないことがあると切り替えに時間がかかる児童もいるので、全員が楽しく前向きに取り組めるよう指導の工夫が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・45分間を通して集中して取り組めるよう、授業の組み立て方を工夫していく。</li> <li>・新しい曲とたくさん出会い、愛着をもてるよう、歌集からリクエストソングを歌っていく活動を今後も続けていく。</li> <li>・ゲーム性のある遊び歌を入れたり、テンポよく授業を進めたりすることで、楽しい雰囲気作りに努めていく。</li> </ul>
<p><b>【音楽表現の創意工夫】</b></p> <p>リズムカードを組み合わせて音楽をつくる題材では、約半数の児童が既存のリズムカードを用い、残りの半数は自分で新たにリズムをつくりたいと熱意をもったのぞんでいた。これは、予想を上回る人数であり、自分自身で試行錯誤をすることが好きな児童が多いことが分かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に創意工夫をしている児童の作品を、見本として学級全体に紹介していく。それにより、創意工夫をすることの面白さを全員で共有していく。</li> </ul>
<p><b>【音楽表現の技能】</b></p> <p>4～5人のグループで歌唱の発表を行った際には、全員が意欲的に声を出すことができていた。精一杯声を出すあまりに、時折叫び声に近くなってしまうこともある。きれいな歌声でも歌えるよう学習を進めていく必要がある。</p> <p>鍵盤ハーモニカでは、楽曲を完成させるまでに要する時間に個人差はあるものの、全員が正しい指づかい、タンギングで演奏することができる。他の友達の音を聴きながら、合わせて演奏しようという意識をもつ児童が増えてきたので、学級全体としてその意識が広まっていくように指導を続けていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学年に向け、歌唱では、友達の声や伴奏の音を聴きながら、声を合わせて歌えるよう指導をしていく。そのために、「聴き合う活動」を取り入れていく。</li> <li>・きれいな歌声で歌うことの良さを実感できるような模範演奏を提示する。また、高音域を声帯に負担をかけずに出す発声方法を少しずつ取り入れていく。</li> <li>・鍵盤ハーモニカについては、基本ができてきたので、2パートに分かれた曲を扱うなどして、合わせる楽しさを感じさせていく。</li> </ul>
<p><b>【鑑賞の能力】</b></p> <p>鑑賞活動に意欲的な児童が多い。特に映像を鑑賞すると、休み時間にも話題を出すなど関心の高さがうかがえる。また、旋律の違い、強弱の変化を身体で感じられている児童が多い。言葉で表すことには、積極的な児童とそうでない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲を聴いて感じ取ったことを友達などに伝え合う活動も取り入れ、友達の感じ方に気付いたり、自分の感じ方を広げたりさせていく。まずは自分の言葉でワークシートに記入をしてから交流をするというように、段階を踏んで行うことで、全員が前向きに取り組めるようにする。</li> </ul>

### 3年生

1 児童の実態と分析	2 今後の指導の工夫
<p><b>【音楽への関心・意欲・態度】</b></p> <p>音楽活動に意欲的に取り組む児童が多い。学級全体として前向きな雰囲気の中で活動が進むことが多いので、やや表現に対して消極的な児童も、近くの友達に感化されながら活動に参加できていると分析する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がより楽しんで取り組めるような教材の吟味および教材の提示方法の工夫をしていく。</li> <li>・主体的に授業に参加できるよう、主に言葉がけの工夫、学習形態の工夫をする。その中で、他者と関わりながら学ぶ楽しさをより味わわせていく。</li> </ul>
<p><b>【音楽表現の創意工夫】</b></p> <p>良い見本を示すと、それに似せようと積極的に表現を工夫する姿が見られる。今後は、真似することにとどまらず、自分自身で思いや意図をもって表現の工夫ができるように指導をしていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容を捉えやすくするために、絵や写真、映像などの視覚教材を積極的に活用する。</li> <li>・表現を工夫する手がかりを示し、その手がかりをもとに工夫した表現を互いに発表し合いながら、それぞれの表現のよさを感じ取る経験を積み重ねていく。</li> </ul>
<p><b>【音楽表現の技能】</b></p> <p>歌唱では、明るく伸び伸びと歌える児童が多い。高音域を「自然で無理のない歌い方」で歌える児童も増えてきた。今後は、互いの歌声を聴き合いながら、声を合わせるように、指導をすすめていく必要がある。今年始めたリコーダーにも意欲的に取り組んでいる。数人、正しい指づかいの定着に時間のかかる児童がいるため、支援をしていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数で歌う活動も積極的に取り入れていく。その際、同じグループの友達と声を合わせることを意識できるよう、良い見本を提示したり、言葉がけの工夫を行ったりする。</li> <li>・リコーダーにおいて、指づかいの定着に時間のかかる児童には、ヒントカードを配るなどの手立てを工夫する。そして、机間指導の中で、どの音でつまずきやすいのかを丁寧に見取り、具体的な練習方法を提示していく。</li> </ul>
<p><b>【鑑賞の能力】</b></p> <p>集中した様子で楽曲を鑑賞でき、感じ取ったことを強弱、速度などの「音楽を形づくっている要素」をもとに言葉で説明できる児童が増えてきた。また、聴いた音楽に合わせて身体の動きを変化させられる児童も多い。今後は、友達の感じ方のよさや違いにも気付いて認め合うことで、より深い楽曲の理解につながると分析する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書いたことや身体で表現したことを伝え合う活動を取り入れ、友達の感じ方に気付いたり、自分の感じ方を広げたりさせていく。</li> </ul>

## 4年生

1 児童の実態と分析	2 今後の指導の工夫
<p><b>【音楽への関心・意欲・態度】</b>            新しい曲や楽器への関心が非常に高く、意欲的に音楽活動に取り組もうとする児童が多い。しかし日によっては、話を静かに聞く時と活動する時のメリハリがつきづらく、活動時間が十分に確保できないなど、彼らのもてる力を十分に引き出せていないと感じる時もあるので、指導の改善が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が話を集中して聞けるように、指示は短く明確に分かりやすく出す。そのための授業準備を丁寧にしていく。</li> <li>・「やってみたい」と思うような魅力ある導入の工夫を行う。</li> <li>・「できるようになった」という達成感を得て毎時間が終えられるよう、ねらいを達成させるための手立てを何種類か用意し、児童の実態に合わせて出していく。</li> </ul>
<p><b>【音楽表現の創意工夫】</b>            曲想や歌詞の内容から感じ取ったことを積極的に言葉で発表できる児童が多い。また、様々な視点から意見を出すことができるので、解釈を深めることができる。今後は、解釈したことを実際の表現により生かしていけるよう、指導の工夫が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強弱や速度などの「音楽を形づくっている要素」を様々なに変化させることで、同じ曲でも印象が変化することに気付かせ、表現を工夫する楽しさを味わわせていく。そのために、グループごとに表現を試行錯誤し、発表し合う活動を設けていく。</li> </ul>
<p><b>【音楽表現の技能】</b>            歌唱では、伸び伸びと表現できる児童が多い。「自然で無理のない歌い方」で歌える児童が増えてきた一方で、地声になってしまう、高い音が出しづらい等の理由で積極的になれない児童も少数いる。歌うことは好きな児童が多いので、その気持ちが減らないよう、少しずつ技能指導をしていく必要がある。リコーダーでは、全員が既習の音の正しい指づかいを覚えてはいるが、滑らかに演奏できるようになるまでは個人差が大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然で無理のない歌い方」を楽しみながら習得できるように、発声練習の工夫をしていく。苦手意識のある児童は、ピアノの近くや得意な児童の近くにするなど、歌いやすい環境を整える。</li> <li>・リコーダーにおいて、楽譜上の音と指づかいを一致させるのに時間のかかる児童には、個別にヒントカードを配るなどの手立てを工夫する。得意な児童には発展として新たな課題を出し、曲のレパートリーを増やしていく。</li> </ul>
<p><b>【鑑賞の能力】</b>            1学期に鑑賞した『パパゲーノとパパゲーナの二重唱』では、声の掛け合いや重なりを聴き取り、自分なりに物語を想像しながら聴くことができた。時折正解を求めすぎてしまうこともあるので、自分なりに楽曲のよさを見つけ、聴く喜びを味わえるように指導をしていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学年の鑑賞では、曲の中での「変化」に気づかせ、そこから楽曲の良さを感じることにへとつなげていくことが重要である。「変化」を感じ取れるようにするため、曲に合わせて体を動かしたり、曲の中の対照的な部分を聴き比べたりする活動を取り入れる。</li> <li>・映像などの視聴覚教材を活用し、実際に楽器を弾いている場面も想像しながら鑑賞できるようにする。</li> </ul>

1 児童の実態と分析	2 今後の指導の工夫
<p><b>【音楽への関心・意欲・態度】</b></p> <p>音楽室にある様々な楽器に興味をもつなど、音楽特に器楽活動に関心をもっている児童は多い。またリズム活動に大変意欲的に取り組む。一方で授業においては、題材や授業展開によって学級全体が意欲的に取り組む時と、一部の児童の意欲を引き出せない時とがあった。どの題材でも意欲的に取り組めるよう、指導の工夫が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どの題材においても、思わずやってみたいと思えるような導入の工夫、分かりやすく端的な説明を行い、活動への意欲を高める。</li> <li>• 何のための練習なのか、目的や理論を分かりやすく伝え、納得して活動に臨めるように、教材研究をしていく。</li> <li>• リズム活動を適宜取り入れるなど、45分の組み立て方を工夫していく。</li> </ul>
<p><b>【音楽表現の創意工夫】</b></p> <p>音楽づくりの題材では、全員が考えや意図をもって楽器やリズムを選ぶことができた。選んだものを組み合わせるグループ活動では、積極的に試行錯誤をする児童と消極的な児童とが約半数ずつ見られた。また、歌唱や器楽の演奏では、表現の工夫までおこなっている児童と、音をとることにとどまっている児童とがいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全員がグループ活動に積極的に参加できるように、前段階で個人作業を入れる、グループでの目標を明確に設定させる、ワークシートを工夫するなどの手立てを行う。</li> <li>• 曲想や歌詞の内容に対する問いかけを増やし、自分たちで考えるきっかけをつくっていく。</li> <li>• 曲想や歌詞の内容を根拠にし、どのように実際に演奏につなげていきたいかを話し合わせる活動も入れていく。自分たちの解釈で、演奏をつくり上げることができるという達成感を味わわせる。</li> </ul>
<p><b>【音楽表現の技能】</b></p> <p>器楽特にリコーダーでは、自分のパートを正しい運指で演奏できることにくわえ、他声部の音や全体の響きを聴きながら、音を合わせて演奏できる児童が昨年度よりも増えた。歌唱では、伸び伸びと表現することができる児童がいる一方で、あまり自信をもてないためか、周囲の友達の様子を見ながら遠慮がちに声を出している児童も見受けられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リコーダーで培った合わせる力を、使用する楽器の種類が増えても生かせるように、「聴き合う」「合わせる」ことの大切さを引き続き伝えていく。</li> <li>• ゲーム要素のある発声練習も取り入れながら、楽しく声を出せる雰囲気作りをしていく。</li> <li>• 特に音程をとることが苦手な児童には、ピアノの近くや得意な児童の近くにするなど、歌いやすい環境を整える。</li> <li>• 歌詞の内容を深めたり、表現の工夫を行ったりするなど、多角的に歌を深めることの楽しさを感じさせる。</li> </ul>
<p><b>【鑑賞の能力】</b></p> <p>新しい曲との出会いに関心をもって鑑賞活動に取り組んでいる。また、曲を聴いて感じたことや思ったことなどを適切な言葉で書ける児童が多い。全体の場では発言する児童にやや偏りがあるので、書いたものをもとに共有するなど、全員が積極的に意見を交流できるようにするための工夫が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 楽曲の特徴や演奏の良さを多角的に理解できるように、友達と意見交換する活動をより多く取り入れていく。その際、一人ひとりが自分の意見をもち発言できるよう、一度書いてから発表をするなどの工夫を取り入れていく。</li> </ul>



1 児童の実態と分析	2 今後の指導の工夫
<p><b>【音楽への関心・意欲・態度】</b></p> <p>目標に向かって、意欲的に取り組むことのできる児童が多い。返還祭に向けて、休み時間等にも主体的に練習をしたり、友達と教え合ったりする姿が見られた。特に器楽の学習に非常に積極的である。歌唱では、常に前向きに取り組む児童が約半数いる一方で、題材によって意欲にムラがある児童もいる。どの題材でも意欲的に取り組むことができるよう、指導を工夫する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標をもって取り組むことができるよう、題材の最後には録音をしたり発表の機会を設けたりする。また、題材のねらい、一時間一時間のねらいを明確にして授業を作り、児童にも分かりやすく示していく。</li> <li>・どの題材も「やってみたい!」と関心をもって活動できるように、導入の工夫をしていく。</li> </ul>
<p><b>【音楽表現の創意工夫】</b></p> <p>グループでリズムアンサンブルをつくる活動では、どのグループも「反復」「問いと答え」「」などの組み合わせを工夫して、オリジナルの作品をつくることができた。積極的に試行錯誤をする児童が多いが、友達任せになってしまう姿も見られた。そのため、一人ひとりが思いや意図をもって音楽づくりに取り組めるよう指導の工夫をしていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽づくりを行う際には、どんな音楽をつくりたいか一人ひとりが思いをもてるよう、例示をしたり考える時間をとったりする。個人、ペア、グループなど、学習形態の工夫も行っていく。</li> <li>・1学期は、歌唱や器楽の演奏活動において、強弱などの工夫を教師側から提示することが多かった。2学期以降は、児童自らが気付き、主体的に表現の工夫を行えるよう、主に言葉がけの工夫をしていく。</li> </ul>
<p><b>【音楽表現の技能】</b></p> <p>総じて楽しんで表現できる児童が多い。歌唱では、伸び伸びと表現できる児童と、声を出すことを躊躇しがちな児童がいる。後者の児童は、「自然で無理のない発声」で歌うことや、特に高音の音程をとることに苦手意識をもっているのではないかと分析する。器楽では、1学期の器楽合奏において、一人ひとりが自分の課題に前向きに取り組む中で、技能の向上をはかっていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム要素のある発声練習も取り入れながら、楽しく声を出せる雰囲気作りをしていく。</li> <li>・パート練習や机間指導の中で、一人ひとりの歌い方をよく見取り、よいところを伸ばしながら、具体的な手立てを講じていく。</li> <li>・発声にこだわりすぎず、歌詞の内容を深めたり、表現の工夫を行ったりするなど、多角的に歌を深めることの楽しさを感じさせる。</li> </ul>
<p><b>【鑑賞の能力】</b></p> <p>新しい曲との出会いに関心をもって鑑賞活動に取り組んでいる。また、オーケストラで使用される楽器に関する関心も非常に高い。長い曲を鑑賞するときにも、集中をきらさずに主体的に聴けるよう、指導の工夫をしていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着目するポイントを明確に示すことで、目的をもって集中して鑑賞できるようにする。</li> </ul>

## 【図工】

### 1年生

1 児童の実態と分析	2 今後の指導の工夫
<p><b>【関心・意欲・態度】</b> 絵や工作、鑑賞などの題材に関わらず大変意欲的で、造形活動を楽しもうという姿勢が確立できている。繊細な作業を必要とする活動においても落ち着いて取り組むことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童がより夢中になって取り組めるような導入や題材の工夫に努める。</li><li>・視覚題材を積極的に活用し、児童全員が分かりやすい授業を展開する。</li></ul>
<p><b>【発想・構想の能力】</b> 表現したいことが分からずに悩む児童もごくまれにいることもあるが、概ね題材にそった発想を各自で思い付き、活動に取り組むことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・発想を苦手とする児童の手立てとなるよう、参考作品は複数準備する。</li><li>・一人ひとりの活動を見取り、児童の力を引き出せるような適切な言葉かけをする。</li></ul>
<p><b>【創造的な技能】</b> 慎重に取り組む児童が多く、学年に合った技能を身に付けることができているが、中には自分の思い通りについたり描いたりすることができず、悩む児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童の活動を丁寧に見取り、全員ができるまでショートステップで授業を進行し、個別の声かけや支援を行う。</li><li>・達成感を与えられるような指導を心がけ、児童の実態に合った題材選びや教材の工夫をする。</li></ul>
<p><b>【鑑賞の能力】</b> 色や形のおもしろさや共通点を楽しんで見付けるだけでなく、友達の作品のよさも積極的に見付けることができる児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・今後も図工的な見方をする楽しさを感じられる活動を鑑賞の授業に限らず、普段の授業でも盛り込み、見ることが身近に感じられるようにする。</li></ul>

## 2年生

1 児童の実態と分析	2 今後の指導の工夫
<p><b>【関心・意欲・態度】</b>            図工の授業に対し、大きな関心・意欲をもっている。活動にのめり込み、「つくる・聞く・片付ける」のメリハリが難しい児童も中にはいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片付け時間をあらかじめ掲示しておき、見通しをもって取り組めるようにする。</li> <li>・日頃から、簡潔で分かりやすい指示を心がけ、全員ができるまで待つ。</li> <li>・全員が楽しく取り組めるような環境と場の設定の工夫をする。</li> </ul>
<p><b>【発想・構想の能力】</b>            題材やテーマを伝えたときに途方に暮れた顔をする事もあるが、友達をつくる様子を見たり、話し合ったりする中で自分のつくりたいものを見付け、最終的にはほとんど全員が自分の考えをもって活動に取り組むことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生の実態に合わせた導入の工夫を行う。</li> <li>・児童一人ひとりの「こうしたい」を引き出せるよう、適切なタイミングで適切な声かけをする。</li> </ul>
<p><b>【創造的な技能】</b>            大変ていねいに繊細な活動をする児童もいる一方で、急いで終わらせようと大雑把な活動をしてしまう児童もいるので、速度よりていねいさを求めるような意識が広まるような指導が必要に感じている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上手下手でなく、ていねいな活動をしている児童を積極的に紹介し、技能上達の意識向上を図る。</li> <li>・「できた」という達成感が1回の授業で何度も得られるような展開の工夫を行う。</li> </ul>
<p><b>【鑑賞の能力】</b>            友達の作品のよさを見付けようとする児童が多い。色や形のおもしろさを感じているが、上手く言葉にできない児童も中にはいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から色や形のよさやおもしろさを伝える言葉を積極的に使い、児童の語彙を増やすよう心がける。</li> <li>・見ることを楽しめるような鑑賞活動を多く行い、鑑賞が身近に感じられるようにする。</li> </ul>

## 3年生

1 児童の実態と分析	2 今後の指導の工夫
<p><b>【関心・意欲・態度】</b> 造形活動への好奇心が旺盛で、毎回全員が意欲的に活動に取り組む姿が見られる。聞く・つくる・話し合う・片づける等、メリハリのある活動ができ、児童同士の話し合いの中でよりよい方向へ活動を進めることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・現在の状態を維持できるよう、今後も児童の実態をよく把握し、題材設定を工夫する。</li><li>・児童の「もっとやりたい」という気持ちを引き出せるような適切な声かけを行う。</li></ul>
<p><b>【発想・構想の能力】</b> 3年生ならではの楽しい発想でよく考えながら取り組むことができる。その一方で、他と異なることを不安に感じる児童も中にはいる。自分の発想に自信をもつてのびのびと取り組むことができるような工夫が必要に感じている。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・導入では参考作品に頼らず、より児童の発想を引き出せるような言葉の精選を行う。</li><li>・自分の発想に自信がもてるよう、積極的に声掛けや紹介を行い、自己肯定感を高められるようにする。</li></ul>
<p><b>【創造的な技能】</b> 一つひとつの工程をていねいに組み立てる児童が多く、ほとんどの児童が3年生として必要な技能を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・全員が確実にできるよう、今後もひとり一人の悩みやつまずきにに応じて対応していく。</li></ul>
<p><b>【鑑賞の能力】</b> 日頃から自分たちの作品を見合い、楽しく話し合う姿勢が身に付いている。感じたことを言葉に表すことに抵抗なく取り組めるが、表現が似通ってしまうこともある。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・今後も楽しく鑑賞活動に取り組めるよう、適切な題材を選ぶとともに、普段から積極的に色や形に着目した声掛けを行い、児童の語彙を増やせるよう心がける。</li></ul>

## 4年生

1 児童の実態と分析	2 今後の指導の工夫
<p><b>【関心・意欲・態度】</b>            題材によっては非常に意欲的で、ひとつの完成図に向かって取り組むことができる。図工の授業における基本的な姿勢がまだ身に付けられていない児童も中にはおり、授業進行に反省が残った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が安心して活動できるような環境づくりや場の設定の工夫をする。</li> <li>・聞きやすい話し方、言葉の精選を行う。</li> <li>・図工の授業ルールを毎時復唱する。</li> <li>・日頃から自己研鑽に努め、適切な指導力を身に付ける。</li> </ul>
<p><b>【発想・構想の能力】</b>            題材やテーマを伝えると同時に作り始めることができる児童が多い。絵に表す活動では、同じ表現で作成した模様であっても全員が独自の発想でそれぞれならではの作品づくりをすることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も児童の発想を引き出す導入の工夫や言葉かけの工夫を行う。</li> <li>・声かけを積極的に言い、一人ひとりの活動をよく見取り、それぞれの活動に合った適切な対応を行う。</li> </ul>
<p><b>【創造的な技能】</b>            4年生として必要な技能は今のところ身に付いている。友達より早くしあげようと懸命になり、時間を上手く使えない児童も中にはおり、速度よりていねいさを求めるような意識付けの必要に感じている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が基本的な技能を身に付けられるよう、十分なお試し時間を確保し、その後本番へ進むという展開は今後も守っていく。</li> <li>・活動終了の時刻を明記しておき、見通しをもって時間を有効に使えるようにする。</li> <li>・ていねいな活動をしている児童を積極的に紹介し、技能上達の意識向上を図る。</li> </ul>
<p><b>【鑑賞の能力】</b>            ほとんどの児童が色や形から雰囲気を感じ取ることができるが、言葉に表すことが苦手な児童もいる。見る楽しさが感じられず、鑑賞活動が難しいこともあったため、自身の指導に課題を感じている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色や形から感じる言葉を日頃から積極的に使い、児童の語彙を増やすようにする。</li> <li>・日頃から自己研鑽に努め、見ることの楽しさが味わえるような活動を普段から授業に盛り込み、苦手意識を無くすようにする。</li> </ul>

## 5年生

1 児童の実態と分析	2 今後の指導の工夫
<p><b>【関心・意欲・態度】</b>            今日は何をするのか、楽しみにして来る児童が多く、全体に造形活動への関心が高い。自分の力で最後まで仕上げようとする意識も高いが、題材によっては、最後まで集中が続かない児童も中にはいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の意欲を削がない導入、言葉がけの工夫を行う。</li> <li>・どの題材でも全員が楽しく最後まで集中力を持続できるような、環境や場の設定の工夫を行う。</li> </ul>
<p><b>【発想・構想の能力】</b>            思いもよらぬ視点から発想する児童が多く、毎題材違う児童から驚かされる。それぞれの発想のよさをより引き出す必要性を感じている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発想を引き出す題材設定や題材提示の工夫を行う。</li> <li>・発想の邪魔になることのないよう、声かけは必要最小限にし、タイミングを見計らって適切に行う。</li> </ul>
<p><b>【創造的な技能】</b>            ほぼ全員が5年生として必要な技能を身に付けている。刃物類の扱いも手馴れており、ルールを守って活動することができる。決められた時間内にしあげることに関して課題が残る児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい道具使用の際は、基本的な約束を毎時声掛けし、安全指導を徹底する。</li> <li>・題材の全体時数や本時の活動時間を明記し、見直しをもって取り組めるようにする。</li> </ul>
<p><b>【鑑賞の能力】</b>            全体に、色や形から感じる力がとても高い印象がある。現代美術館との連携授業では、独自の感性で撮影した作品をお互いに発表し合い、認め合うことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の感じる力をより引き出せるよう、今後も鑑賞活動を定期的に行い、見ることが身近に感じられるようにする。</li> </ul>

## 6年生

1 児童の実態と分析	2 今後の指導の工夫
<p><b>【関心・意欲・態度】</b> 造形活動には積極的だが、題材によっては心が遠くに飛んで行ってしまう児童も中にはいる。特に絵に表す活動では指示が通りにくいこともあったため、指導の工夫の必要性を感じた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•どの題材でも「やりたい」と思えるよう導入を工夫し、苦手意識を持たずに自然と取り組めるようにする。</li> <li>•児童の中に自然と取り込まれるような言葉の精選を行う。</li> </ul>
<p><b>【発想・構想の能力】</b> 自分の発想に自信をもつてのびのびと取り組むことができる児童が多いが、自分の発想に自信が持てず、友達の商品の真似をして満足する児童も中にはいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•児童の発想を引き出せるような導入や参考作品の工夫を行う。</li> <li>•自分の発想に自信がもてるよう、アイディアスケッチの段階では積極的に声掛けや紹介を行い、自己肯定感を高められるようにする。</li> </ul>
<p><b>【創造的な技能】</b> おおむね基本的な技能は身に付いている。絵に表す活動では、独自の発想でつくり始めても、技能が伴わず、あきらめてしまう場面が時々見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•今後も刃物類や新しい道具を使用する際には安全指導を徹底し、事故ゼロを目指す。</li> <li>•最後まで集中力を持続できるような工夫を理由も含めて具体的に伝えることで、児童が納得して進められるようにする。</li> </ul>
<p><b>【鑑賞の能力】</b> ほとんどの児童が、友達の商品のよいところや有名な作品の特徴などを見付けることができる。この作品が「よい」と感じていることは確かだが、何が「よい」のか、自分の言葉で表現することが難しい児童も中にはいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•児童一人ひとりに寄り添い、細かな質問を重ねるなど、児童が感じている感じを言葉にする手立てを講じる。</li> <li>•視点をもった鑑賞活動を普段から授業に盛り込み、児童の見る目を養う。</li> </ul>